

資料の説明

私たちの暮らしは、食料や水の供給、大気や気候の安定、観光やレクリエーションの場の提供など、生物多様性を基盤とする生態系から得られる恵みによって支えられており、これらの恵みは「生態系サービス」と呼ばれています。

平成 22 年（2010 年）10 月、愛知県名古屋市で開催された生物多様性条約第 10 回締約国会議（CBD-COP10）で公開された「生態系と生物多様性の経済学（TEEB）報告書」では、生態系サービスを「供給サービス」、「調整サービス」、「生息・生育地サービス」「文化的サービス」の 4 つに分類しています。

この資料では、この 4 つの生態系サービスに注目し、26 地区ごとに自然環境情報をまとめています。

また、地区の自然環境は、「森・里・川・海・街」の 5 つを基本として表現しています。



森：山地で見られる二次林や自然林などの樹林環境を示しています。



里：市街地から山地に遷移する丘陵地や果樹園・畑、水田などの里地里山環境を示しています。



川：河川や河川敷などの河川環境を示しています。



海：相模湾に接する環境を示しています。



街：市街地の環境や低地で見られる水辺環境を示しています。

資料の構成

【地区の自然環境概要】

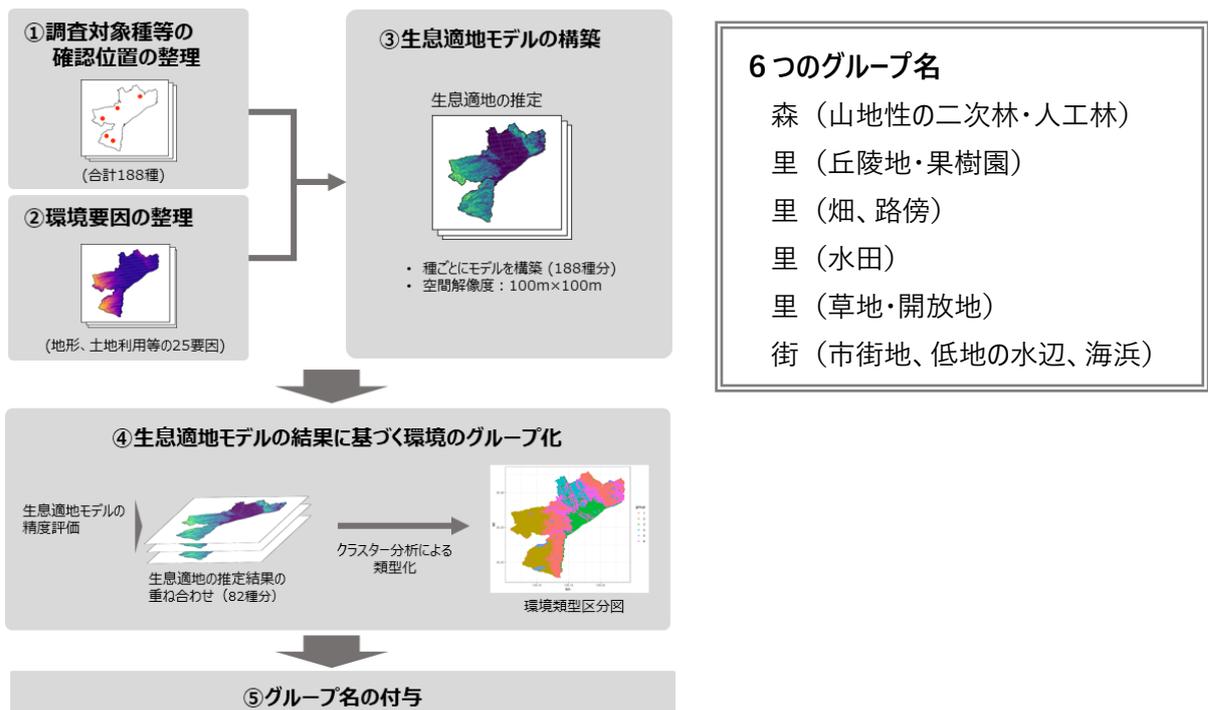
土地利用及び生息適地評価結果を踏まえ、主に動植物の生育・生息の場として見た、地区の自然環境概要を記載しています。

生息適地評価について

小田原市では、平成 29 年度（2017 年度）から平成 31 年度（2019 年度）にかけて、市内の自然環境の調査・分析・評価を行ってきました。この中で、現地調査結果をもとに動植物の生息適地としての環境（「生息・生育地サービス（生態系サービス）」の評価）の評価を行いました。

※生息適地評価の手順

- ① 平成 30 年度（2018 年度）から平成 31 年度（2019 年度）にかけて実施した現地調査において、調査対象とした種等合計 188 種について、確認位置情報を整理
- ② 市内の環境（地形・地理的条件や土地利用条件等の 25 要因）を 100m×100m メッシュ単位で整理
- ③ 187 種が確認された位置（①）とその環境要因（②）とを重ね、類似する場所をその種の生息適地とし、市内全域で生息適地を推定し生息適地モデルを構築
- ④ 構築した 187 種の生息適地モデル（③）のうち、精度が高いと評価された種（82 種）について、似た生息適性を持つ種を集め、市内の環境をグループ化（6 つのグループ）
- ⑤ 6 つのグループの土地利用状況や含まれる種の情報から、グループ名を付与



【地区で見られる動植物】

植生図を基に作成された土地利用の状況¹ (右上図参照) を記載しています。

以下の3件の情報を参考に、過去、地区で確認された動植物の情報を記載しています。

- ◆ 平成30年(2018年)～平成31年(2019年)に実施した現地調査結果
- ◆ 平成29年(2017年)～令和元年(2019年)に実施したヒアリング調査結果
- ◆ 平成29年度 小田原市自然環境等現況調査委託業務文献調査結果

01:自然林(低木林)	11:畑地
02:自然林	12:路傍
03:二次林	13:茶畑
04:人工林	14:果樹・桑・その他
05:竹林	15:緑の多い住宅地等
06:自然草地	16:人工裸地
07:二次草地	17:湿地草原
08:ササ	18:自然裸地
09:人工草地	19:火山荒原・硫気孔原
10:水田	20:開放水域

土地利用の凡例

【暮らしと自然のつながり (生態系サービス)】

地区内の主要な生態系サービスについて、[文化的つながり]、[食のつながり]、[生活環境とのつながり]の3つの側面から記載しています。

【地区で見られる特徴的な自然】

国立公園指定地域(環境省指定)や自然環境保全地域(神奈川県指定)、天然記念物(市等指定)等、特に注目したい自然環境について記載しています。

【自然環境マップ】

以下の情報をマップ上に表示しています。

- ◆ 生息適地評価結果
- ◆ 現地調査地点
- ◆ 文化的サービス(生態系サービス)の要素

地区で見られる特徴的な自然の要素

¹ 日本全国標準土地利用メッシュデータ(国立環境研究所)